

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(令和元年6月2日(日) 14:00～14:04 於) 富岡町)

1. 発言要旨

昨日、福島市において、東北絆まつり2019福島に出席をし、その後、檜葉町の道の駅ならはを視察いたしました。

絆まつりでは、各県の力強いパレードを通じて、復興に向かう東北の元気な姿を見ることができました。

道の駅ならはでは、震災以来8年ぶりに温泉保養施設の営業が再開されたということで、多くの方に利用され、地域のにぎわいにつながることを願っております。

そして今日は、檜葉町、広野町のJヴィレッジにおいて、福島12市町村の将来像に関する有識者検討会に出席した後、ここ東京電力廃炉資料館を視察したところであります。

検討会については、いただいた意見をしっかりと受けとめて、関係者と連携しながら今後取り組んでまいりたいと思います。

最後に、ここ廃炉資料館では、原発事故の記録や廃炉事業に関する情報発信等の状況を視察しました。この資料館を通じて、廃炉・汚染水対策が一步ずつ着実に進展していることを、より多くの方々に知っていただきたいと思います。

2. 質疑応答

(問) 2日間お疲れさまでした。こちらの廃炉資料館の視察は初めてのことですけれども、改めて原発の立地自治体ですとか、あるいはその周辺自治体への復興に向けた所感というか、決意をお伺いできればと思います。

(答) まず、ここに来たのは初めてでございます。ただ、私自身は東京電力福島第一原発については、直接、現地を視察しておりますので、その状況は現場で見えておりますのでわかっておりますが、この場所は、一般の方々が見ていただくためには、大変重要な施設だというふうに思います。ぜひとも多くの方に、この資料館でさまざまな状況について学んでいただきたいと思います、そのように思っております。

また、今後の支援については、これからも地域の自治体の皆さん方の意見を聞きながら、しっかりと寄り添って対応してまいりたいというふうに思います。

(問) 先ほどJヴィレッジも行かれて、再開後では初だと思うんですが、昨日は五輪の聖火ルートの出発地点と正式に発表がありましたけれども、復興五輪に向けての大臣の期待や所感という

のをお伺いできますか。

(答) 昨日、組織委員会で発表されました。正式な形で3月26日、出発がJヴィレッジからということであります。まず、聖火リレーが東日本大震災の被災地で回ることができることは、組織委員会の皆様方を始め、関係者の皆様方に心から感謝を申し上げたいというふうに思います。

聖火リレーを通じて世界各国に、東日本大震災発災のときに支援していただいた国々に対する感謝の気持ちと、そして被災地が復興に向けて進んでいる姿を、これから大いに発信をしていきたいというふうに思います。

(以 上)